平成２７年第１２回中津川市教育委員会（定例会）議事録（要旨）

日　　時　　平成２７年１２月１８日（金）　午後１時３０分

場　　所　　にぎわいプラザ　４－１会議室

出席委員　　小栗 仁志　　田島 雅子　　小幡 隆徳
　　松田 幸博　　大井 文高

事務職員　　勝事務局長・原文化スポーツ部長・原教育次長兼学校教育課長
今井事務局次長兼教育企画課長・末木文化スポーツ部次長
小林図書館長兼蛭川済美図書館長・西尾教育研修所長
小椋幼児教育課長・山下子育て政策室長・西尾阿木高等学校事務長
辻発達支援センターつくしんぼ所長兼発達相談室長
大山生涯学習スポーツ課長・川合文化振興課長兼市史編さん室長
川上鉱物博物館長・楯中央公民館長・二村図書館副館長

会議日程　　１　開　　会
２　前回議事録の承認
３　教 育 長 報 告
４　議　　事
５　閉　　会

番　号	議　題	結　果
議第３３号	平成２８年度中津川市立小中学校教職員の人事異動方針について	承　認

【開　会】
【議　事】
【委員長】それでは議事に入ります。日程第１、議第３３号　平成２８年度中津川市立小中学校教職員の人事異動方針について、提案説明をお願いします。原教育次長。

〔　事務局から資料に基づき説明　〕

【委員長】ただ今の件について、ご意見、ご質問ありましたらお願いします。松田委員。
【松田委員】資料の３の事務職員、中津川で事務職員はいますか。
【委員長】原教育次長。
【教育次長】事務職員は県費、３１校ですが、坂本小学校が１名多く３２名おります。様々な会計処理、事務手続き、給料関係、子どもの補助等に当たっていただき、大変助かっております。時には事務だけにとどまらず子どものことについて、また先生のことについて、いろいろなアドバイスや支援をしていただいているところです。
【松田委員】今日の日経にも新潟市の例が出ておりました。今、先生方がいろいろなことに忙殺されてしまっている。新潟市では事務職員さんを一生懸命充実させて、定期的に同じ処理を共同でやるとか、そういう作業をしていて非常に効率化できているという部分と、定期的な昇給についても、職位についても、その中から管理職に上がって行けるシステムも作っていることが書いてありました。本当に学校の先生方が、子ども達としっかり向き合える時間を充実させていくのが大事なことなので、こういう事務職員さん達をもっと充実していけるようなところも、例えば県教委に働きかけていただくことも大事なのかなと、それを見ながら感じていました。中には教頭先生なんかだと、本当に学校のことができるのかなと、いろいろなところで忙殺されているようなこともお聞きします。ぜひ、学校を充実させるためにも、この辺の部分もちょっと県教委に働きかけていっていただけるといいと思いました。
【教育次長】ありがとうございます。
【委員長】そのほかございますか。田島委員。
【田島委員】私も松田委員さんがおっしゃることに関連して、ずっと聞きたいと思っていたことがあります。一般的な教員の方の一日の日常の生活時間配分、非常に難しく今お答えいただけないかもしれません。例えばベテランの方も中堅の方もいて、役のついている方も初任の方もいらっしゃるので、答えにくいことかもしれませんが、どれぐらい私生活や自分の時間があるのか、伺いたいと思います。答えられる範囲でお願いします。
【委員長】原教育次長。
【教育次長】おっしゃった通りで子どもの前に立つときには、よく、笑顔は先に笑

わないという言葉があるんですが、教員自らが健康で先に笑わない限りは、子どもにいい教育ができないと思っております。そうした意味で教職員の健康は、とても大事だと思っております。そこの一つ一つの若い職員から年配の職員までの私生活についてはやはり教頭を中心に、あるいは養護教諭が顔色を見たりとか、生活の様子をチェックしたりということに当たっております。また、私どもが教育長訪問等で学校に行ったときには、そうした一人職の養護教諭、あるいは教頭に職員の様子はどうかということで拝聴してつかんでおります。一人一人の時間については分かりませんが、超過勤務時間で申しますと、１１月のデータでは小学校も中学校も１人平均が約４０から５０時間です。これは中津川市内の全ての小中学校のデータですので、５０時間を切っているということで、先日校長会、教頭会でも話したところです。やはり成績をつけたりとか、学校行事が多い６月、１０月などは多くなるところです。今その把握を全ての教頭から私の方に月の平均超過勤務時間の報告があって把握して、できる限りの縮減を図って健康管理に努めています。また一方で、時間だけではなくその先生の自己肯定感のようなものを全て毎日投げかけることで、日頃のストレスがなくせるようにということも配慮して指導しています。

【田島委員】実労というか、実際に動いていて超過勤務ということと、精神を自分の生活でなくそちらに集中しなければいけないという勤務、時間配分は大分違ってくると思います。多分教員の方々は、何か問題があったりすると一日中そちらに頭が向いてしまって、非常に精神的なストレスは感じるんじゃないかと思います。そういうことを非常に危惧しています。

もう一つ、松田委員さんがおっしゃったように、その人でなければできない事務処理もありますし、その人でなくてもできることがあります。できるだけその人でなければできないことではないこと、他人にお願いしてもできる事務処理を一つにまとめて、そちらで頼んでいく。そうすれば少しは負担が減っていくのではないかということもあります。そういうことも考えてあげたいと思います。

今のことと関わるんですが、今年も一年が終わりますが、児童生徒に関する痛ましい出来事が今年もたくさん耳に入ってきました。中でも７月に岩手の担任と生活ノートをやりとりしている中で、中学生が自ら命を絶ったという出来事がありました。これは２人の命を失ったと考えられます。１人は本当に生命を失った。１人は担任として。その担任は人生の中で一番重いものを背負って、これからずっと生きていかなければいけないということだと思います。報道によるとその学校では、教師を一人ぼっちにしてしまうというか、教員に対する相談、ケアの充実さが欠けていたようです。中津川市は今、教頭が把握しているという話は今伺ったんですけど、システム的に担任教師なり若い教師なりを一人ぼっちにしないシステムはあるんでしょうか。

【教育次長】システムという明確なものはまだこれから考えていくところですが、

まず日常の活動で、朝の会、帰りの会、学級会、道徳教育等について、子どもを一人一人見ることはやっています。加えて、先ほどのお話にありましたように、一人一人の心をつかむということで言いますと、同じように生活ノート、グループノートもありますし、そうしたものから子どもたちの様子をつないで把握していくということがあります。また、研修会、中津川市は特にここがすばらしいところだと私は思っていますが、命の教育ということを施策にも書いてありますが、中津川市ぐるみでやっていまして、命の大切さということで研修もやっていますし、それを各担当が持ち帰っていかに子どもたちに話していくかということも、中津川市独自ではシステムにはないかもしれませんけど、やらせていただいています。あとは、担任と子どものつながりというのが、全てというところがあると思います。だから、いじめについてはどこにでもあり得る、どの学校にでもあり得るという認識の下に、毎日子どもとの対応の中で各学校があるという意識の下に探っていくことをしております。加えて、市教委も学校と連携を取りながらその辺を十分チェックしています。

【委員長】教育長。

【教育長】ご質問の趣旨は職員の組織の方だと思います。システムというのは。こちらについては、中津川市は３つの大きな教育の進め方の重点を掲げてあり、その一つに「機能する組織」を掲げて動いてきています。そういう中で、よくあるケースが初任者などをサポートする体制で、形としてこういう委員会を作ってということではないんですが、非常に充実してきている。大変苦しい状態があるときにも全員がバックアップするような状態はできています。そのほかには、教育委員会事務局もいつでも随時職員に対しても相談に乗るという状況があって、少し情報が入るとこちらも連絡を取ってみようと出かけていって、必要なら直接その本人とコンタクトを取りながら相談に乗るということで、実際つい最近もそういうことをやってきています。それで完璧ということにはなってはいかないんですが、アンテナだけは高くしていくという態勢は取れるようにしています。

【田島委員】課長のお話も子ども達についてのお話も理解しました。先生方に対するケアも中津川市は非常に充実していると聞き、安心しました。これからもよろしくお願いいたします。

【委員長】そのほかございますか。小幡委員。

【小幡委員】中津川市の定期人事異動方針の中の配置で「教諭等」と書いてあります。これは東濃教育事務所の方にはなくて中津川市の方で出てきているという「等」です。これはどの辺まで含む「等」ですか。

【委員長】原教育次長。

【教育次長】「教諭等」とは、まず再任用の教諭も含まれるということです。中津川市では本年度１名、来年度も何名か再任用で受けていただいていますので、ぜひ

活躍していただけると思っております。
【小幡委員】それ以外では、多分、教員の数でいくと中津川市では足りなくなってくると思うんですが、そういった人たちを含んでいるということですか。
【教育次長】おっしゃる通りで、当欠講師ということで、当初からいないので、県費の講師も含めるということでご理解をいただきたいと思います。
【小幡委員】そういった人たちを中津川市で預かって各学校へ配置して、組織の一人として頑張っていただくということですので、本当にこの人たちを中津川市として育てて、できたら正規の教員になっていただくという方向で、あるいはその人がスキルアップしていただけるような方向をどのようにして取っていくかということが非常に大事だと思います。そういった職能の向上ということでは、配置はされますが、これから指導していくという意味での方策は何か考えていますか。
【教育次長】講師の皆さんは、初任者の皆さんと違い県の研修がありません。講師の皆さんが力をつけていくということで言うと、市独自の講師研というのもやっています。また、講師の皆さんが採用試験を受けるわけですが、今年も夏休み、あるいは事前の試験の前、それから４月からも含めて勉強会もしまして、講師の皆さんが試験を受けていってくださるということで、力を付けてチャレンジをしていただきました。何名かが講師から来年度新規採用という良い結果を得ることができ有り難く思っています。
【小幡委員】こういった先生方は、多分中津川市に関係した人が多いと思うんです。そういった意味では、その方たちが正規の職員になっていただくことは非常に大きな意味があって、中津川市の地元の先生が増えていくことですので、ぜひ今、成果を上げられているということですので、またそういうことが進むように、大変ですが努力していただきたいと思います。
　もう一点、この先生方、一般の先生方も管理職も同じですが、異動するということは、年限が来たから代わるということではなくて、やはり大きな意味があって、代わられる先生が自分の中に、代わることによって新しい職場で頑張っていくという大きな意義を持っていただくことが非常に大事だと思います。教育委員会が配置するんですが、動く先生にどのようにそれが伝わっていくか、どのようにその先生にそういった意味付けがされていくか、教えていただきたいと思います。
【教育次長】異動は一つの研修であると捉えています。異動先でまた新たに頑張っていただくとか、自分で身に着けた力をいっそう伸ばしていくと考えています。その意味で、学校長はその職員と人事面談をして一人一人その先を語るときに、やはりストーリーを描いて、あなたはこういう意味で、ここで活躍してほしいという面談というのが、とても大事になってくると思います。自分が自己有用感をもって、次の職場で頑張れるということを学校長の方に指導して、人事面談、ストーリーを描いて次のところへ行けるという指導をしています。

【小幡委員】今次長さんのおっしゃったことが非常に大事だと思います。かつて私も経験したことがあるんですが、先生方の中には、年数が来たから代わらせられたと言っておられた方があります。そういう先生を迎え入れたことがあります。これはいかんなと。やはり、こちらが期待してきていただくということがあるわけですから、本当に中津川市の先生がどこの学校へ行っても、どこの市へ出られても、こんなふうにして教員という人生を送っていく中で、今こういった位置付けの中で自分が動くんだということを強くもって行っていただけるように、ぜひご指導をお願いします。
【委員長】そのほかございますか。田島委員。
【田島委員】今小幡委員がおっしゃったことに加えてです。代わっていかれる教員同士の心の持ち方と、保護者の方に対して、今おっしゃった代わることの大切さや、代わっていって向上していくという意味のことは、多分父兄の方はあまり考えていらっしゃらないと思うんです。ただ普通に３年とか５年とか、時間が経ったら代わるということしか認識がないと思うんです。そういうところを、どちらとも連携を取りながら子どもたちを育てていくのが一番向上していくことになるので、考え方などを統一してあげるのが大事なことだと思いますので、教員が代わっていくことの大事さや、なぜ代わるのかとかいうことも父母の方々にも知らしめて、そこで協力していただくということが大事だと思います。いかがでしょうか。
【委員長】原教育次長。
【教育次長】別れとか出会いとかその意義とか、そうしたものは今おっしゃったようにとても大事だと思っております。そうした機会があるとすると、学校だよりだとか、やられるところもやられないところもあるんですが、歓送迎会等で長年の意義をねぎらうとか、あるいは新しいスタートを激励するとか、そうしたものができると思います。いずれにしても、中津川の先生方は一生懸命やってくださっていますので、別れや出会いは大事に扱っていきたいと思っています。
【田島委員】子どもを育てていくためには、教師、環境、地域の方々、そして親御さんと、目的が一つでないといけないので、いろいろなところの誤解を重ねていかないように、できるだけ風通しよく、教育委員会としての思いをたくさん保護者の方に伝えていくことが大事だと思いますし、また協力もたくさんしていただけると思いますので、よろしくお願いしたいと思います。
【委員長】そのほかございますか。では私から一点だけお聞きします。毎年の定期の異動の方針になるわけですが、例年と違うことが何かあれば教えていただきたいと思います。原教育次長。
【教育次長】異動方針につきましては、大きな変更点はございません。先ほど少し申しましたが、再任用教員ということがここに出てきましたので、そこについて配置を工夫していきたいということが、ここには書いてないですが、思っています。

あとは、前から申しましたように、中津川市を担っていく中津川市の教諭を育てたい、管理職を育てていきたいということがテーマであると思っています。ここには書いてないですが、特に大事にしておきたいと思っています。
【委員長】そのほかございますか。大井教育長。
【教育長】まず何よりも今現在の教職員の年齢構成等の現状、これは総合教育会議でも資料を見ていただいたと思いますが、５０代が全体の中で約４割を占める。ということは、あと１０年で４割がごそっと消えていくという状況です。この年度末でも２０名程度の退職者は出てきます。ということを考えると、どんどん若返りが進んでいく。その中で工夫をしながら、それぞれがレベルアップしていくような配置をしていかないといけないという現状がある。これは東濃全体で見ていくと、東濃西部ではわりと平均的に年齢層がそろっているんだけど、東部へ行けば行くほど中間層、ちょうど３０代、４０代が少なくなってくる状況があるので、東濃全体として見ても、県全体での動きもあるようですが、より広域的なエリアで異動を考えていく必要が出てくるだろうとなっています。これは今後、より顕著になってくる傾向だと思います。そういう意味では、中津川もその年代層が少ないので他市から入ってもらうことは必要になるかと思っています。
【委員長】そのほかございますか。
　それでは、ただいまの件につきまして承認とさせていただきます。
　本日は１議案ですので、これにて閉じさせていただきます。次回の開催につきまして、今井事務局次長、お願いします。
【事局次長】次回は１月１９日火曜日、場所はにぎわいプラザ４－１会議室で行います。よろしくお願いします。
【委員長】それでは、以上で平成２７年第１２回中津川市教育委員会を閉会といたします。年内最後となります。１年間大変お世話になりました。どうもありがとうございました。よいお年をお迎えられることを祈念いたします。以上で閉会します。
【閉　会】

〔　閉　　会　（午後２時３０分）〕